



HP「辻よし子と歩む会」で検索



「辻よし子と歩む会」

☎ 190-0154

あきる野市高尾 182-1 佐橋方

電話 & FAX : 042-596-4569

e-mail : kusasigi@nifty.com

共同代表 : 柏倉倫子・岩田純子

小さな声に耳をすまし、大きな力にひるまず、コツコツと手作りの政治を！

## 武蔵引田駅北口 土地区画整理事業について

今年9月のあきる野市議会には、引田区画整理に関する陳情が2件提出されました。区画整理の「推進」を求める陳情と、「見直し」を求める陳情です。

環境建設委員会での審議の際には、辻さんが区画整理審議会の議事録や委託に関する予算を詳細に調べた結果から、区画整理の問題点を浮き彫りにしましたが、「推進」の陳情は自民・公明の市議会議員の賛成により採択され、「見直し」の陳情は残念ながら不採択となりました。

しかし、この2件の陳情の求めるものは驚くほど一致して、①公共下水道の整備、②駅前広場の整備の2点でした。①と②は区画整理でなくても実現できたはずですが、なぜ区画整理だったのでしょうか。あきる野市が錦の御旗にしているのが市のマスタープランでした。

ところが、先日の市長選で、市の財政立て直しを前面に打ち出し、武蔵引田駅周辺の区画整理事業の見直しを訴



えた村木氏が市長に当選したことから、区画整理について今後検討されるようです。

この選挙結果は、地道に市議会で区画整理などの市政の問題点について追及し、市民の声に耳を傾け続けた辻さんの声が市民に届いたためではないかと思っています。

今年からあきる野市マスタープランの策定に向けて「まちづくり懇談会」が開催されます。市の事業の計画段階から市民の意見が反映される市政が実現するよう、辻さんのように市民が声を上げるべきなのだと思います。

(A・M 引田在住)

※この件については下記の議会報告会で説明します。

市の課題が  
よく分かる

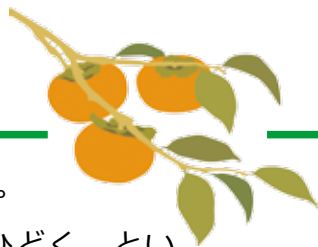
**辻よし子の議会報告会**  
**9月議会のポイントを**  
**分かりやすくお伝えします！**

議会の様子が  
よく分かる

**11月8日(金)**  
**19:00 ~ 20:30**  
**あきる野ルピア3階**  
**産業情報室**

**申込不要・参加費無料**

## ヘンな市議会への感想 ～市議会を傍聴して～



10年ぶりか、市議会を傍聴した。一人の男性議員が質問をしていた。ひどく、というより異常に礼儀正しい。しゃちこぼっている。壇上の議長や市長や市の部長たちに盛んに頭を下げる。僕の目には卑屈、とさえ映る。それは、彼の肝心の質問に何の論理もなく、市政へ何の改善の意思もなく、割り振られた時間をいかにも私はあきる野市議会議員だゾ、票が入ったんだゾ、と誇示し、貴重な質問時間を消費することによって、議員としての体裁を、この立派な議場に確保しているのを見せるだけだった。

続いて一人の女性議員が質問に立った。彼女の質問はこの男性議員とまるで違っていった。市政改善の意思がハッキリ提示され、以前の議会で自分の質問に壇上からなされた回答の一つ一つの事実をキチンと明示し、現在も約束された改善がなされてない、或いは不十分だが何ゆえにか、と明確に指摘して回答を迫った。

これに対し、市長は答えられず、予め割り振っておいた市役所各部長に回答を任せてやり過ごす。各部長も問題を引き続き検討する、と約束するのが殆ど。彼女の発言に、僕は思わず「そうだッ！」

と低音を発するのみだった。実に覇気のない議会。

戦後、今ほどデモクラシーが実践されない時はない。

(I・T 野辺在住)

無所属  
一人会派

### 辻よし子・プロフィール

1960年生まれ。小学校教員を経て、ボランティアとしてタイの農村教育に関わる。1995年よりあきる野市に暮らす。「川原で遊ぼう会」を中心に、市内の環境保全活動に取り組む。3.11以後、新たに脱原発の市民活動を始める。2015年10月の補欠選挙で市議に当選。現在、2期目。草花で、夫と高3の次男、ネコ1匹と暮らす。

## 市民のプラットホーム

### 「学校、好き？ 嫌い？」に参加して

学校や幼稚園、保育園に通う我が子が、どんな風に人間関係を築いて、生活しているのか、親は間接的にしか分かりません。心も体も元気なら問題ありませんが、不満や不安を背負って帰ってきた時などは心配なものです。

本人の成長の過程で、ちょっとした誤解や衝突ならば、社会経験の内だ！ 頑張れ！ と応援することもあるでしょう。けれども、やっぱり不公平な目、理不尽な目に遭ってるような時、周りに助けを求めても何も変わらない時、出口の見えない不安に親も子も潰されそうになると思います。

個人的なことだ、人生どこかで帳尻が合うんだと信じて、今は耐えて嵐をやり過ごそう、と開き直るのも一つの手です。でも、もしかしたら、それは社会全体のほころびで、子どもがしわ寄せを受けているのかもしれない、他にも同じような目に遭ってる人がいて、外に向かって声をあげることが、誰かを助けることになる可能性もあります。

「子ども」と「学校」に焦点を当てた今回の市民のプラットホームでは、当事者以外には見えにくい、多くの心配事が話題に上りました。もっと、子ども一人一人が尊重されるべきなのは大前提ですが、言うのは簡単でも、実行には絶え間ない努力を要します。子ども達のために、先生や親が必要としているのは何か、どんな制度や仕組みが足りないのか、継続して考えていきたいと思います。 (K・T 秋川在住)

